

Ⅳ. ながさきの「食」市民シンポジウム試食会アンケート

■調査概要

市内・市外の出身者による長崎の「観光」、「食」に関する意識を調査・把握し、「まち歩き」と「食」を組み合わせた交流人口拡大のための施策策定の参考とすることを目的とする。

■調査場所

長崎ブリックホール 3階国際会議場

■調査対象

市民・在日留学生

■調査方法

アンケート調査票配付による記入・回収

■調査期間

平成 17 年 10 月 16 日

■回答数

188 件

※ ながさきの「食」市民シンポジウム試食会の様子



(参考：アンケート様式)

ながさきの『食』アンケート調査

本日は、市民シンポジウムにご来場頂き、ありがとうございます。
本市では、本年より「地産地消」推進の一環として、ながさきの『食』の推進を行っており、今後の『観光』と『食』との展開の一助とするため、今回、来場者の皆様にアンケートを行うことになりました。
誠に申し訳ございませんが、下記のアンケートにご協力をお願いいたします。

問1 貴方のご出身地をお教えてください。

- ① 市内 ②市外

☆『観光』と『食』について

問2 長崎への観光目的は何であると思われますか。(3つ回答)

- ① 夜景見学 ②史跡めぐり ③食事 ④ショッピング ⑤祭り(長崎くんち、ランタンフェスティバル) ⑥その他()

問3 長崎の『食』と聞いて何をイメージしますか。(3つ回答)

- ① ちゃんぽん ②皿うどん ③しっぽく料理 ④角煮 ⑤トルコライス
⑤ 新鮮なお魚 ⑥「びわ」などの農産物 ⑥その他()

問4 『食』のイメージのある観光地はどこですか。(1つ回答)

- ① 新地中華街 ②稲佐山 ③あぐりの丘 ④長崎出島ワープ
⑤銅座・丸山界わい ⑧その他()

問5 長崎の『食』を味わうとしたら、どこで食事をしますか。(1つ回答)

- ①料亭 ②ホテル・旅館 ③市中の料理店 ④中華街 ⑤中華街以外の中華料理店 ⑥居酒屋 ⑦その他()

☆地産地消について

問6 「地産地消」を普段の生活の中で意識していますか。(1つ回答)

- ①大変意識している。 ②少しは意識している。 ③今後意識したい。
④今後も意識しない。

問7 「地産地消」の範囲はどこまでと思われますか。(1つ回答)

- ①市内 ②隣接市町 ③県内 ④隣接県

問8 今後、「地産地消」を普及・定着するためには、どのような取り組みが効果的であると思われますか。(1つ回答)

- ①直売所での地元産農水産物の販売
②スーパー等での地元産農水産物コーナーの設置
③学校給食での地場農水産物の活用
④地元農水産物PRのイベント
⑤地元産農水産物による加工品(特産品)の開発
⑥田植え稲刈りなどの農作業体験
⑦「地産地消」啓発のパンフレット等の情報提供
⑧生産者による学校等への出前講座の実施
⑨地元食材を使った地元料理の普及
⑩その他()

☆今回の農水産物加工品等試食会の感想

問 9 今回の農水産物加工品は、ご存知ですか。(1つ回答)

- ①知っていた ②だいたい知っていた ③全く知らなかった

問 10 今回の試食内容でとれがよかったですか。(複数回答可)

試食品

- ①鉄火味噌 ②しょうが味噌 ③つけもの ④田舎まんじゅう ⑤石垣まんじゅう ⑥桃まんじゅう ⑦棚田かりんとう ⑧かんころもち(あん入りを含む)
⑨芋ころちゃん ⑩むら咲むすめ ⑪ギョウザ ⑫ちよく焼き ⑬芋寄せ ⑭蒸しかまぼこ ⑮海水豆腐 ⑯まぜごはん ⑰長崎ゆめびわ茶

問 11. 今回の展示品及び試食品から、今後、ながさき『食』としてPRできるものがありましたか。(複数回答可)

展示品

- ① 恵のみそ ②恵っこ ③アロエパスタ ④アロエソーメン ⑤ドロ様ソーメン
⑥ドロ様うどん ⑦ドロ様エピナールパスタ ⑧ドロ様ポティロンパスタ
⑨ドロ様至風木舎ひらめん ⑩ドロ様さしめん ⑪ドロ様ニョッキ
⑫棚田みそ(麦・米・合わせ) ⑬びわの種 ⑭びわジャム

試食品

- ①鉄火味噌 ②しょうが味噌 ③つけもの ④田舎まんじゅう ⑤石垣まんじゅう ⑥桃まんじゅう ⑦棚田かりんとう ⑧かんころもち(あん入りを含む)
⑨芋ころちゃん ⑩むら咲むすめ ⑪ギョウザ ⑫ちよく焼き ⑬芋寄せ ⑭蒸しかまぼこ ⑮海水豆腐 ⑯まぜごはん ⑰長崎ゆめびわ茶

問 12 「農水産加工品」に期待することは何ですか。(2つ回答)

- ①新鮮でおいしい ②安全で安心 ③安価 ④生産者と消費者の交流
⑤地元農水産業の振興 ⑥地元経済の活性化
⑦その他()

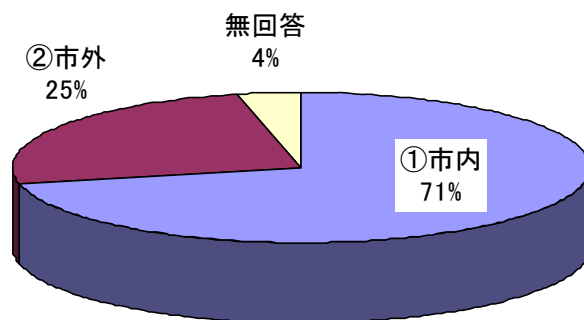
問 13 「農水産加工品」を長崎の特産品とするためには、どのような取り組みがよいと思われますか。(1つ回答)

- ① イベントなどでもっと積極的な周知が必要である。
② スーパー等もっと販路を広げるような展開を進める。
③ さらに新しい加工品を開発していく必要がある。
④ 試食会等でもっと評価を受け、本物づくりを行うべき。
⑤ その他()

ご記入ありがとうございました。今後の参考とさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

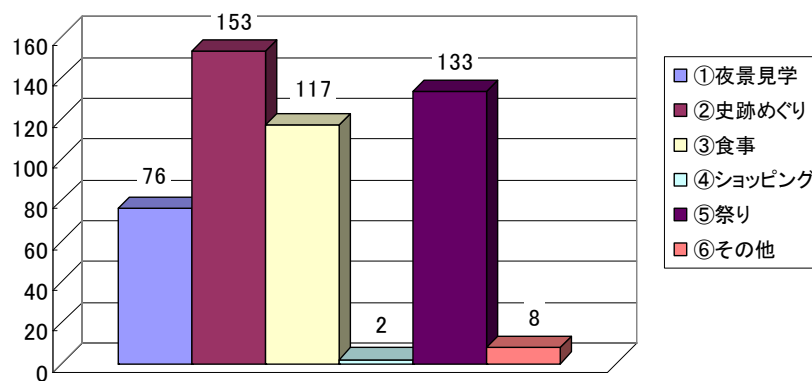
1. 集計結果

問1) 貴方の出身地を教えてください。(択一)

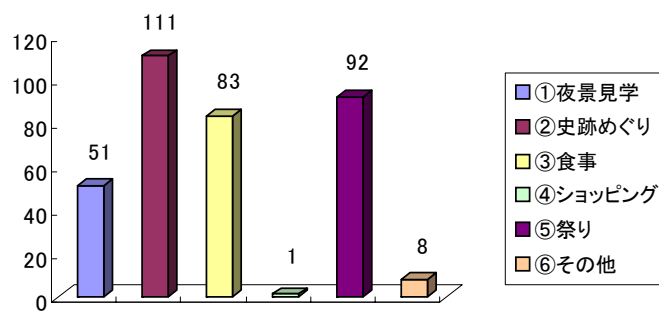


問2) 長崎への観光目的は何であると思われますか。(3つ選択)

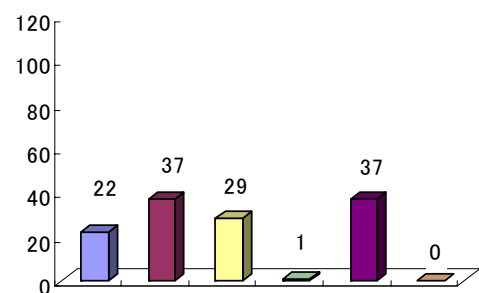
(全体)



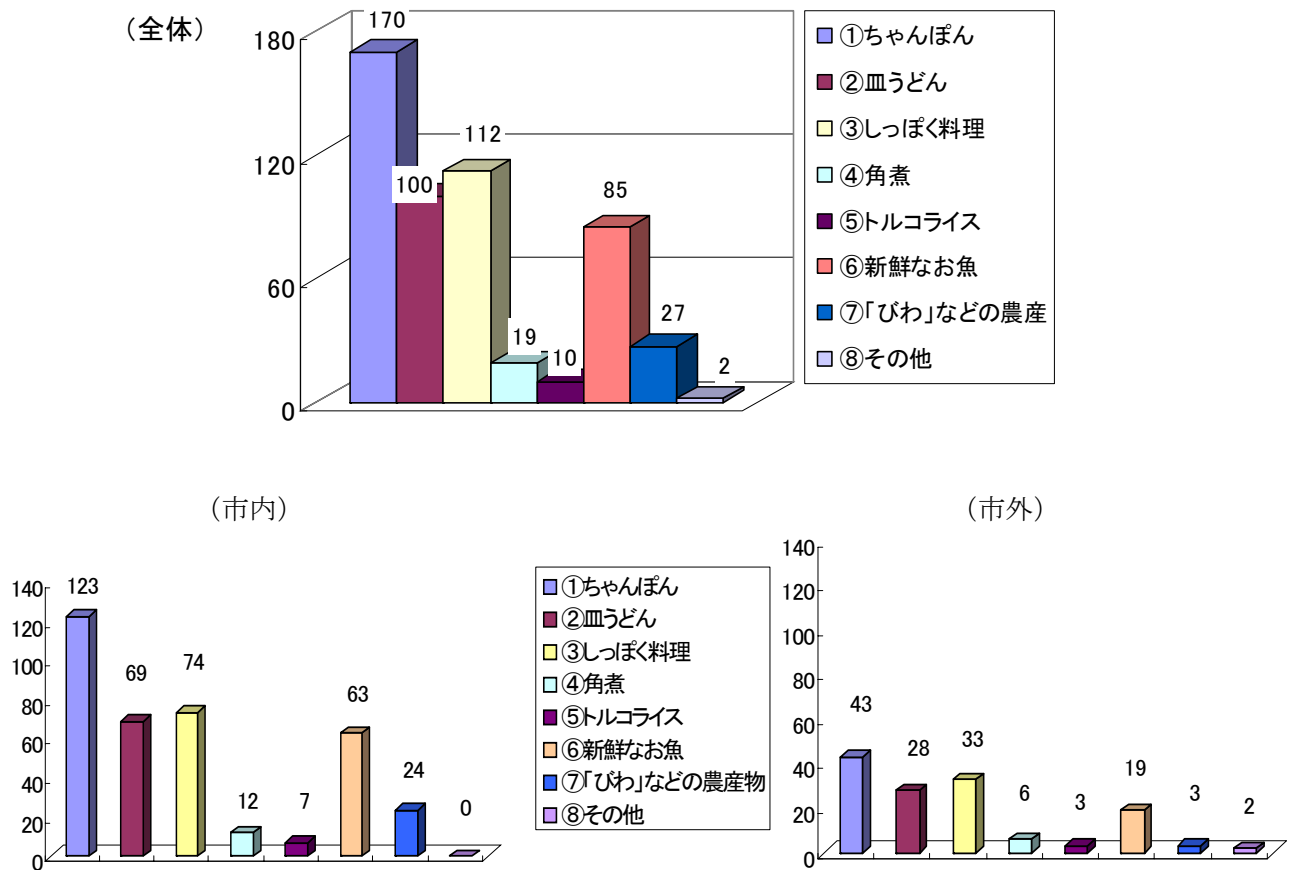
(市内)



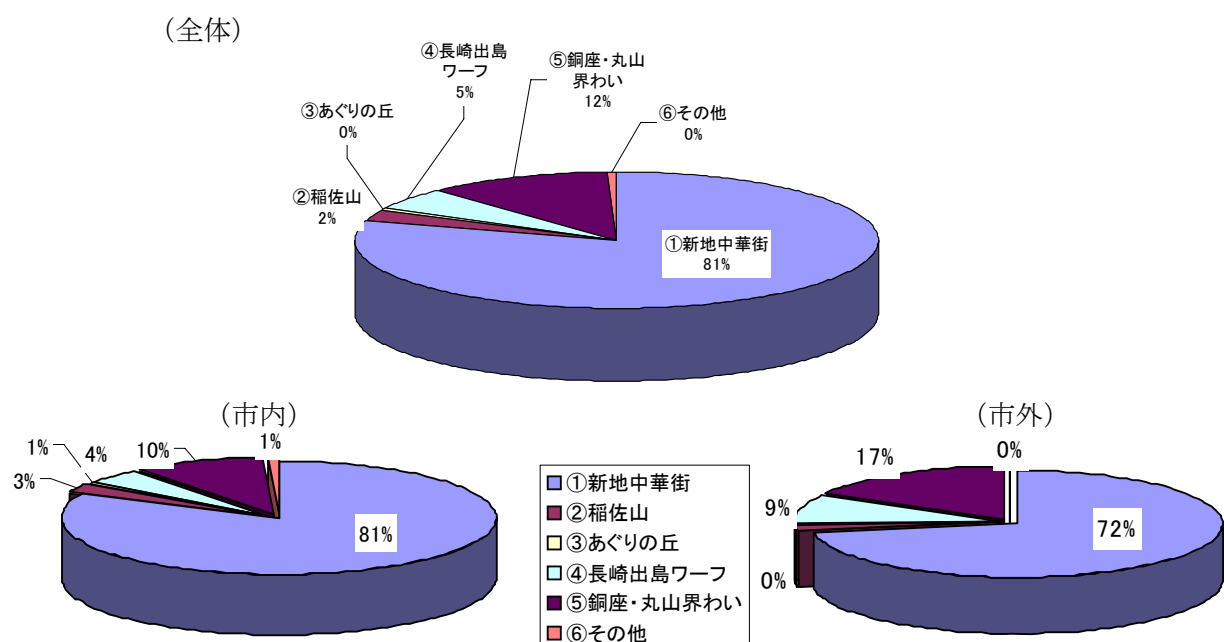
(市外)



問3) 長崎の『食』と聞いて何をイメージしますか。(3つ選択)

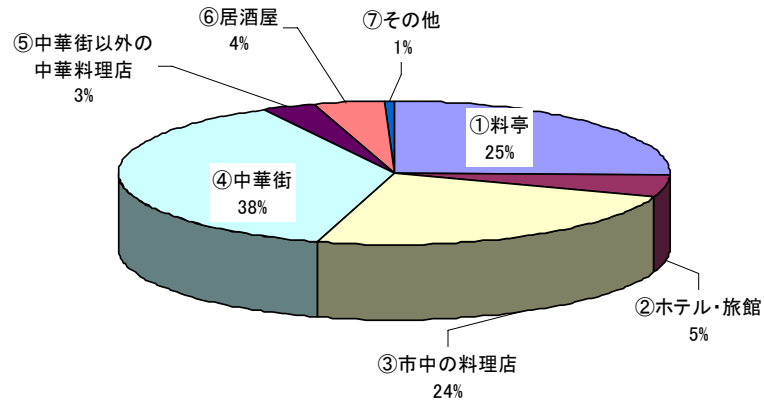


問4) 『食』のイメージのある観光地はどこですか。(択一)

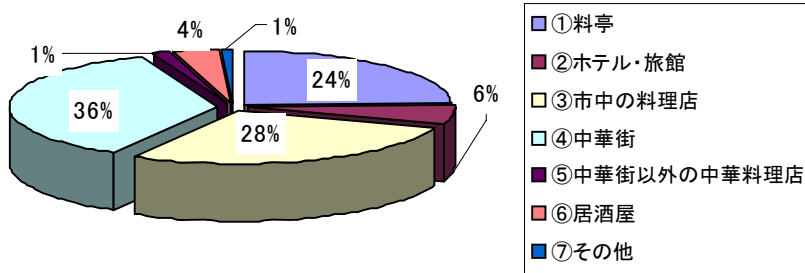


問5) 長崎の『食』を味わおうとしたら、どこで食事しますか。(択一)

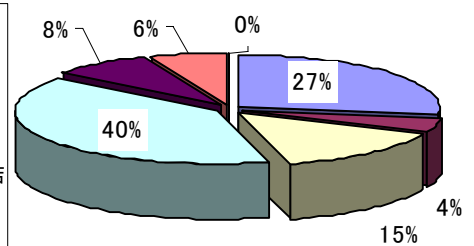
(全体)



(市内)

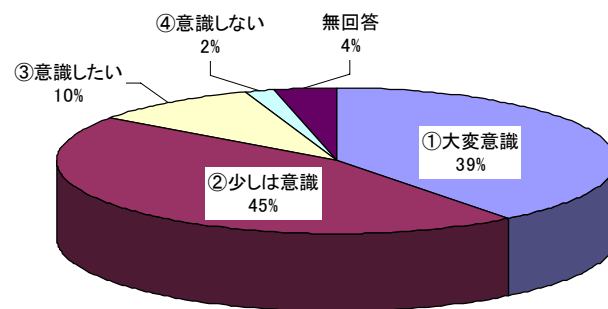


(市外)

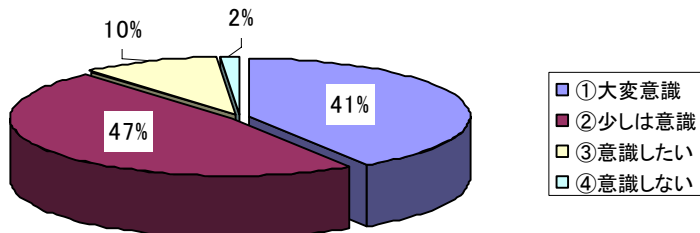


問6) 「地産地消」を普段の生活の中で意識していますか。(択一)

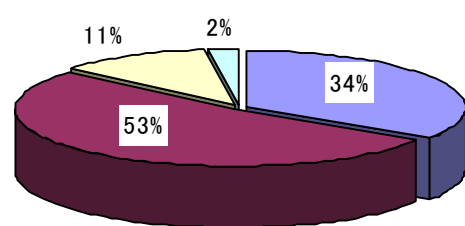
(全体)



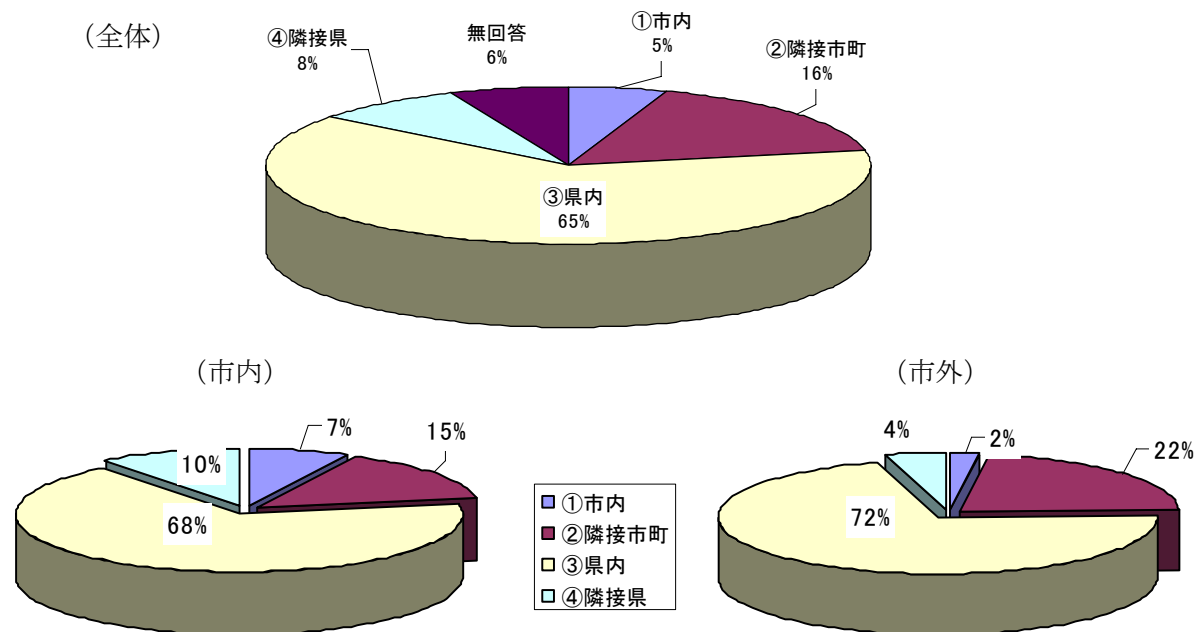
(市内)



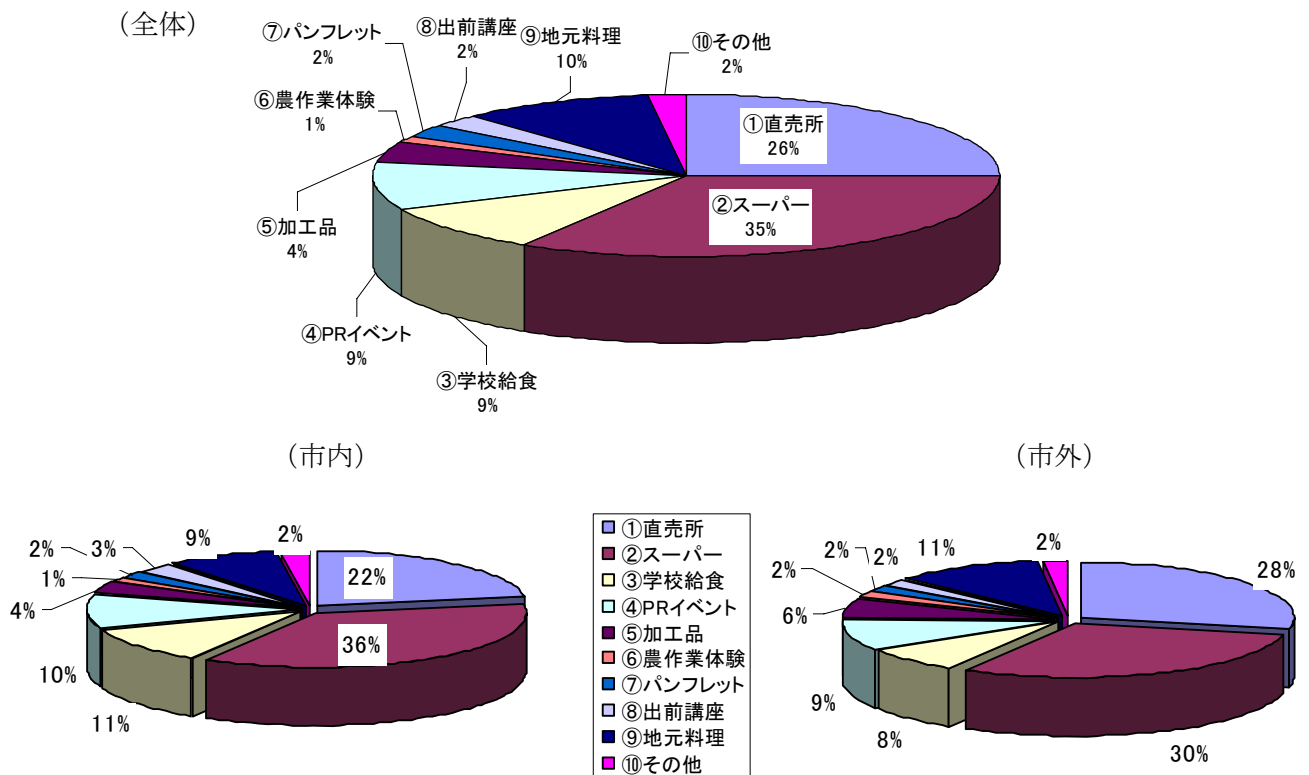
(市外)



問7)「地産地消」の範囲はどこまでと思われますか。(択一)

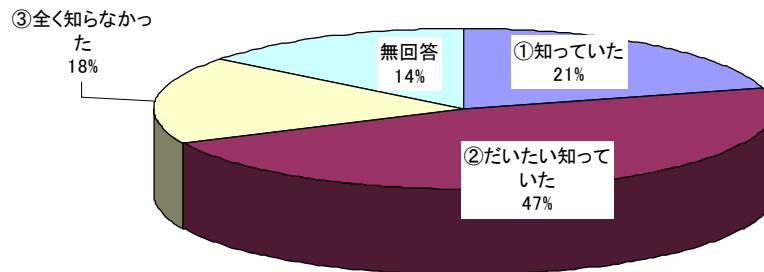


問8) 今後、「地産地消」を普及・手着するためには、どのような取り組みが効果的であると思われますか。(択一)

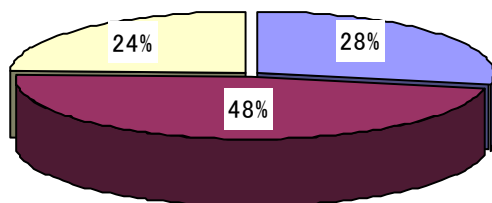


問 9) 今回の農水産物加工品は、ご存知でしたか。(択一)

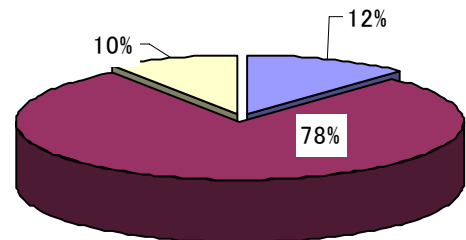
(全体)



(市内)



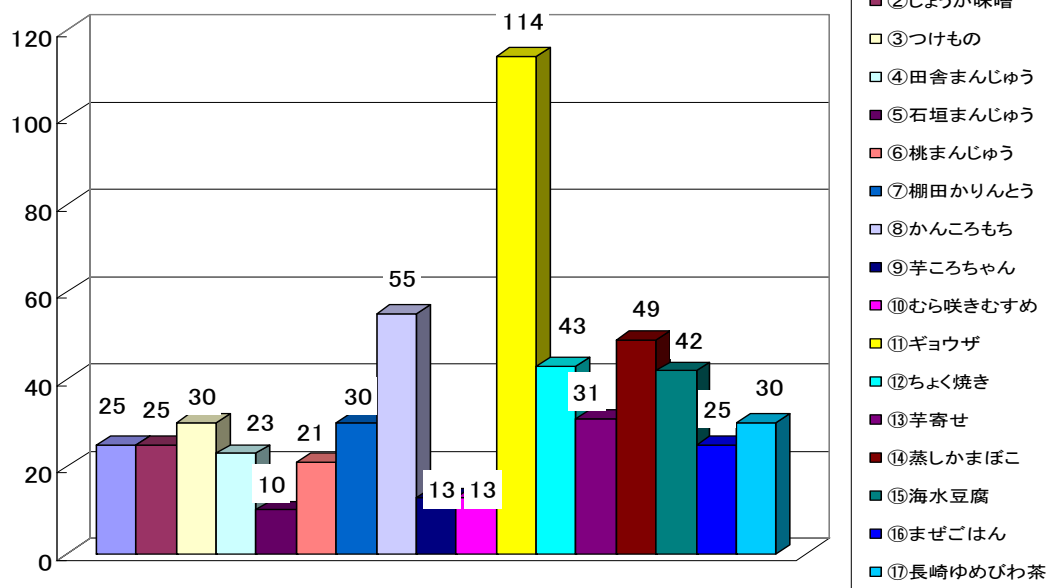
(市外)

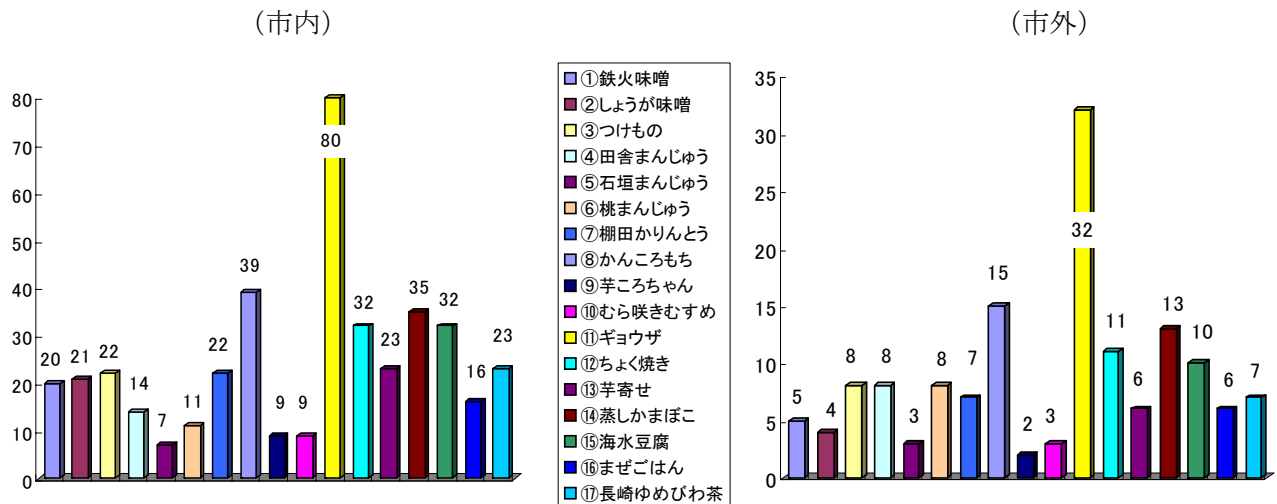


①知っていた
②だいたい知っていた
③全く知らなかった

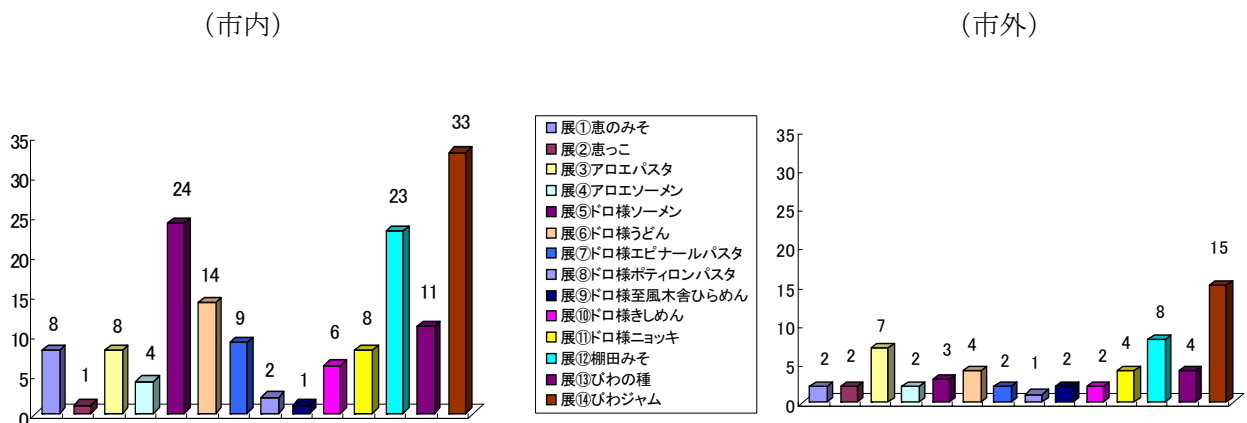
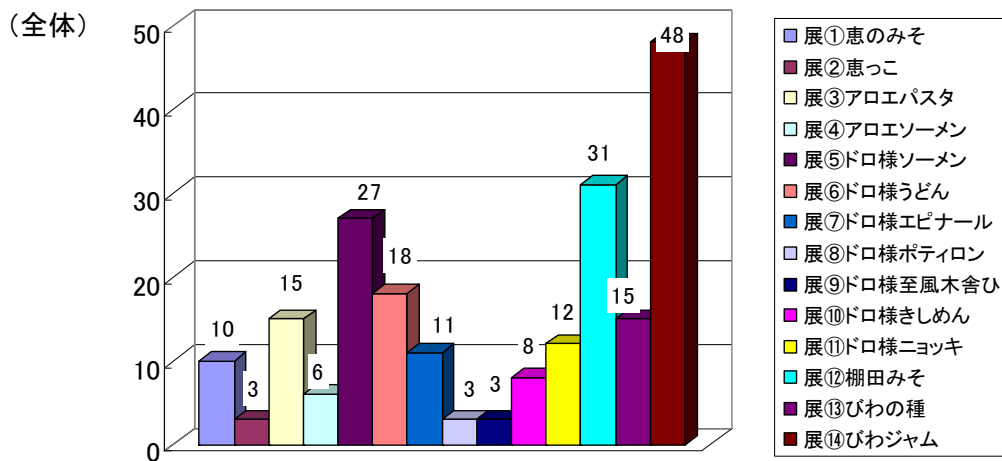
問 10) 今回の試食内容でどれがよかったですか。(複数回答可)

(全体)



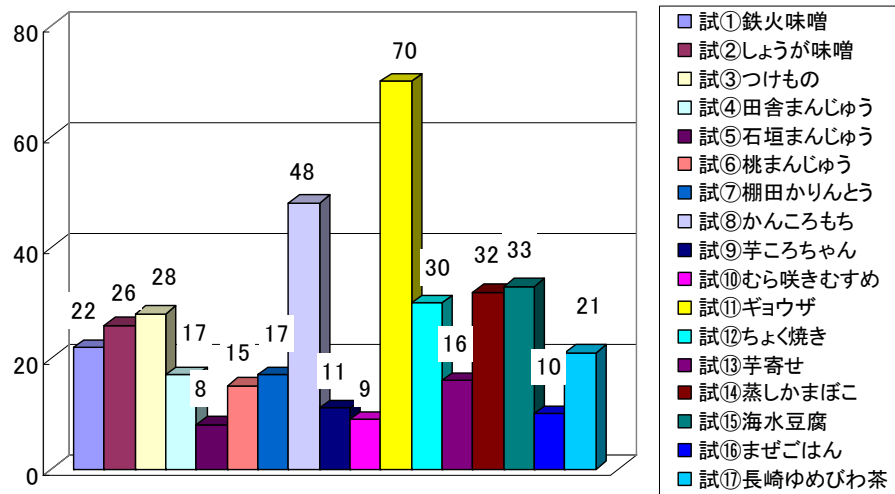


問 11) 今回の展示品及び試食品から、今後、ながさきの『食』として PR できるものがありましたか。(展示品・複数回答可)

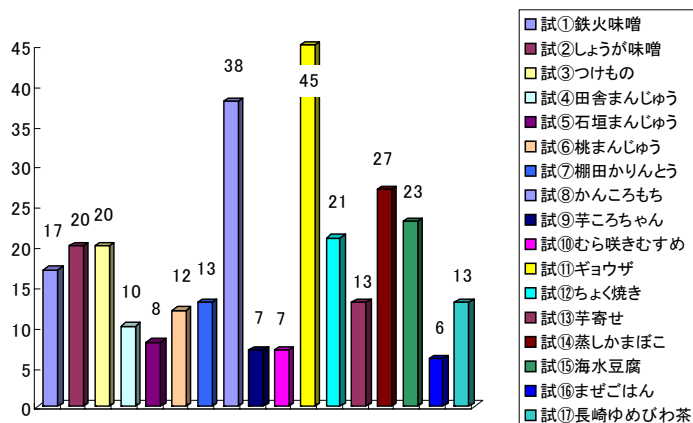


問 11-2) 今回の展示品及び試食品から、今後、ながさきの『食』として PR できるものがありましたか。(試食品・複数回答可)

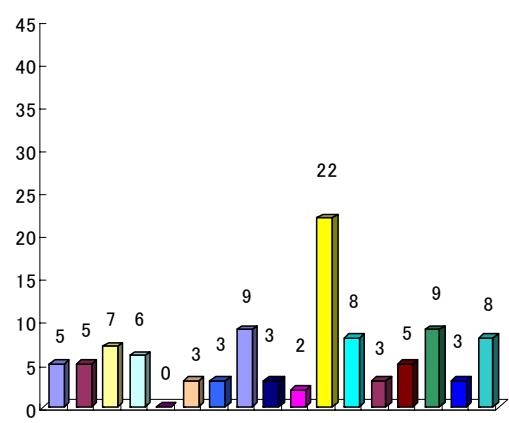
(全国)



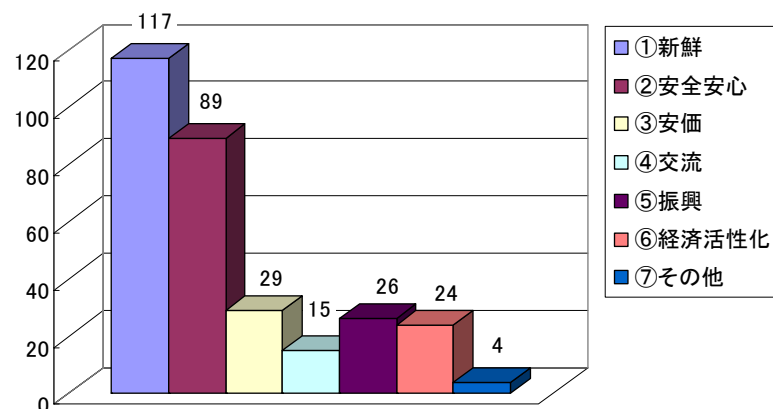
(市内)



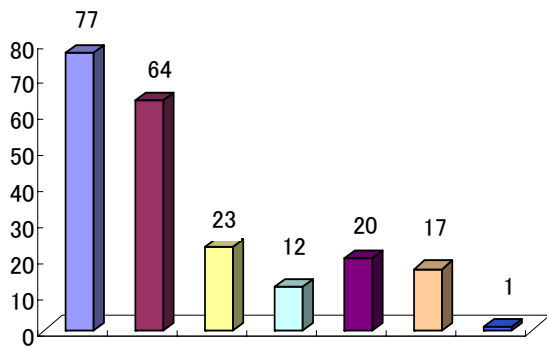
(市外)



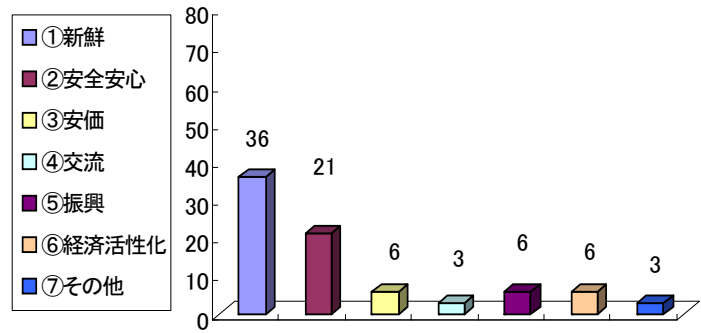
問 12) 「農水産加工品」に期待することは何ですか。(2つ選択)



(市内)

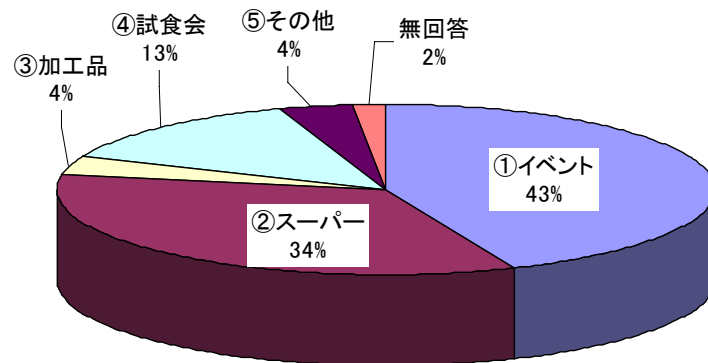


(市外)

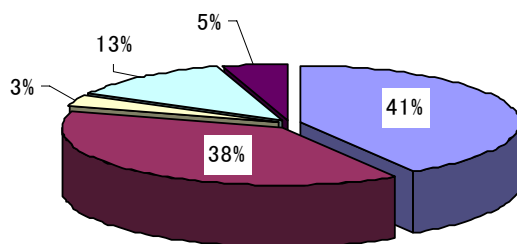


問 13) 「農水産加工品」をながさきの特産品とするためには、どのような取り組みがよいと思われますか。(択一)

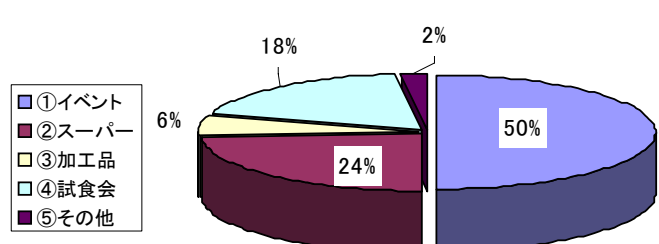
(全体)



(市内)



(市外)

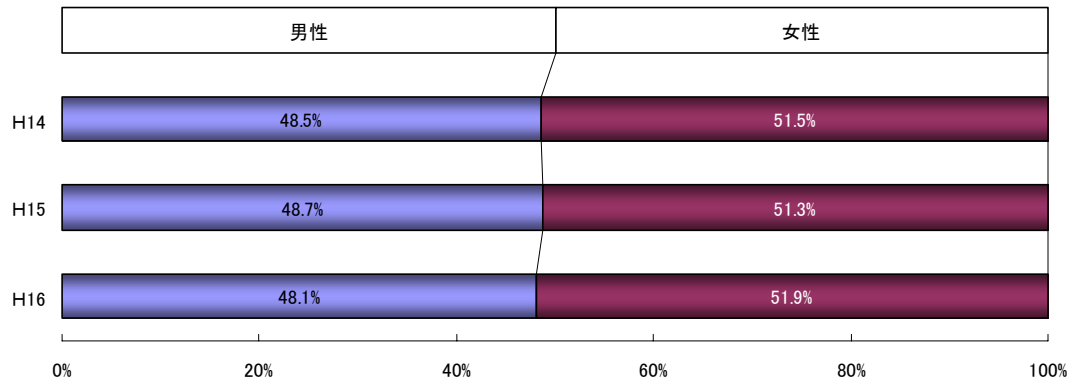


V. 「長崎市観光動向調査」分析結果（H14～16）

分析に際して留意すべき特殊要因

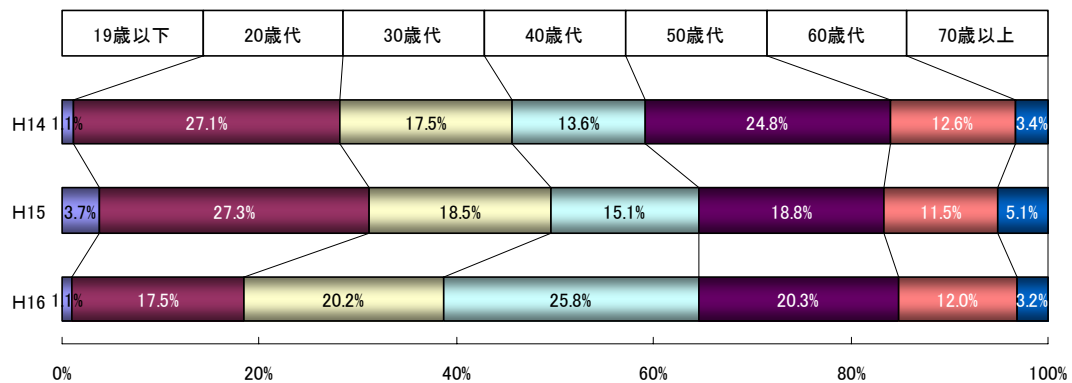
- 平成 16 年度調査においては、調査時期に「九州ブロック PTA 研究大会 長崎大会」が開催されており、当該大会関係者が多数含まれている

性別



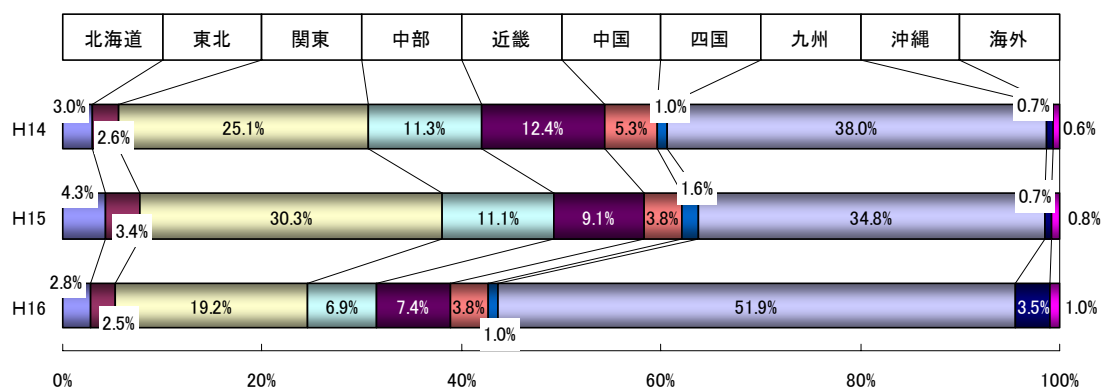
- やや女性の方が多い

年齢



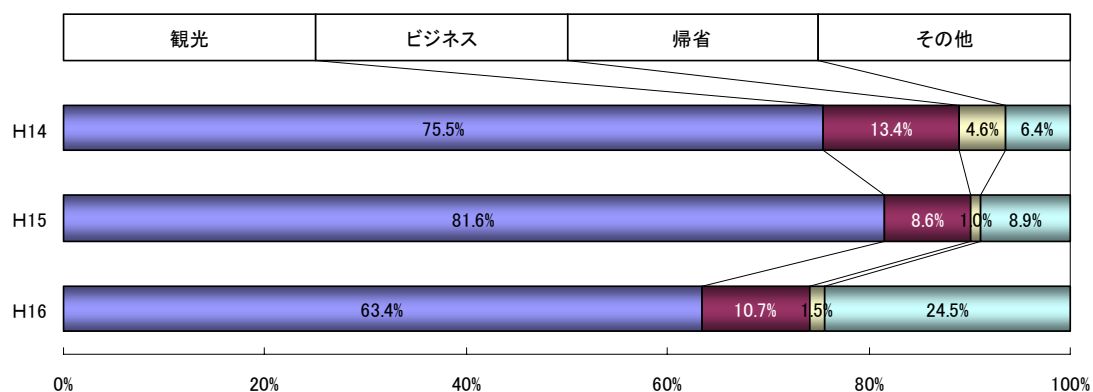
- 平成 16 年度調査では「20 歳代」が減少、「40 歳代」が増加

居住地



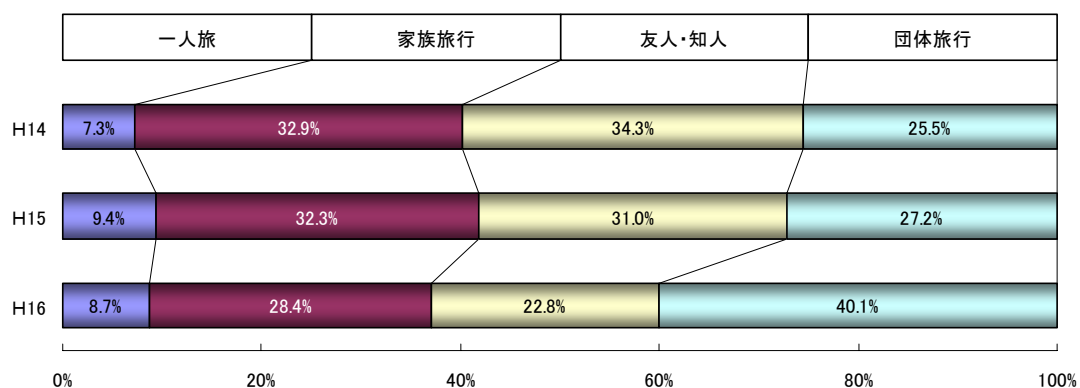
- ・ 平成 16 年度調査では「関東」、「中部」が減少
- ・ 「九州」が急増

旅行目的



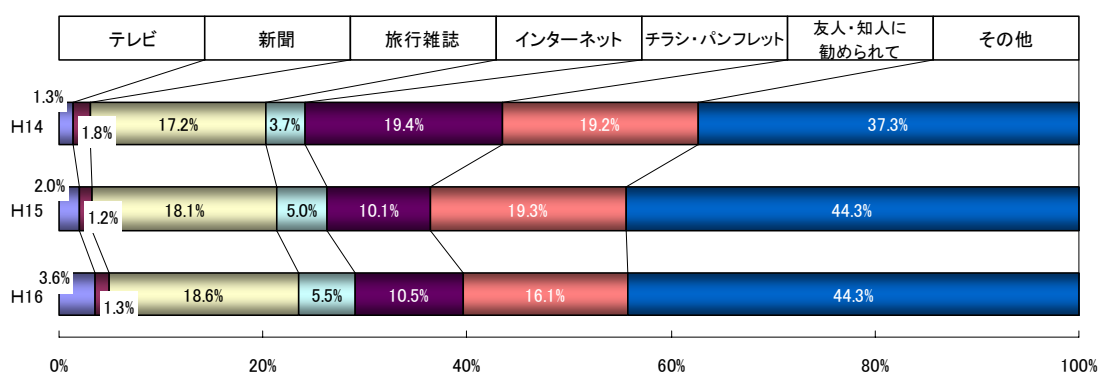
- ・ 平成 16 年度調査では「観光」が減少、「その他」が増加

旅行形態



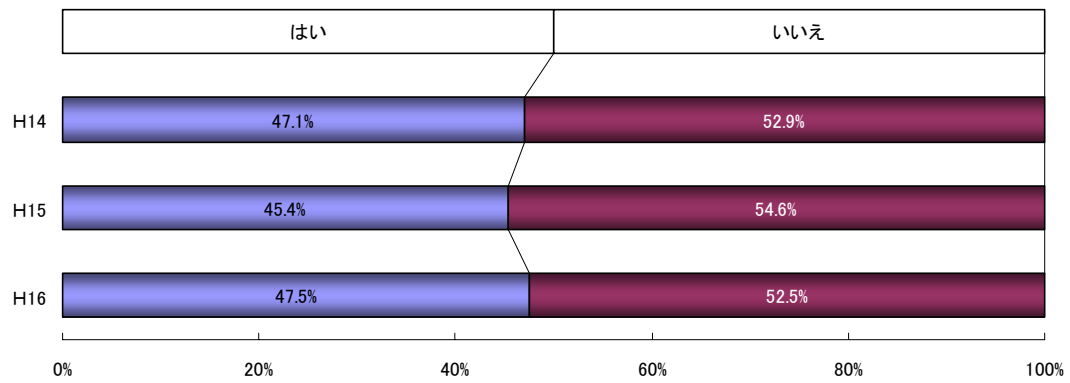
- 平成 16 年度調査では「友人・知人」が減少、「団体旅行」が増加

旅行のきっかけとなった情報源



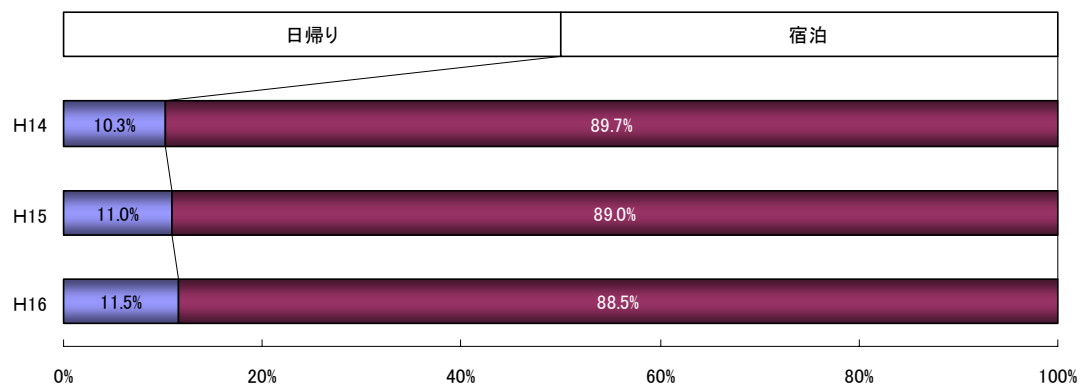
- 「テレビ」、「インターネット」が増加傾向
- 「チラシ・パンフレット」は減少傾向

旅行会社利用の有無



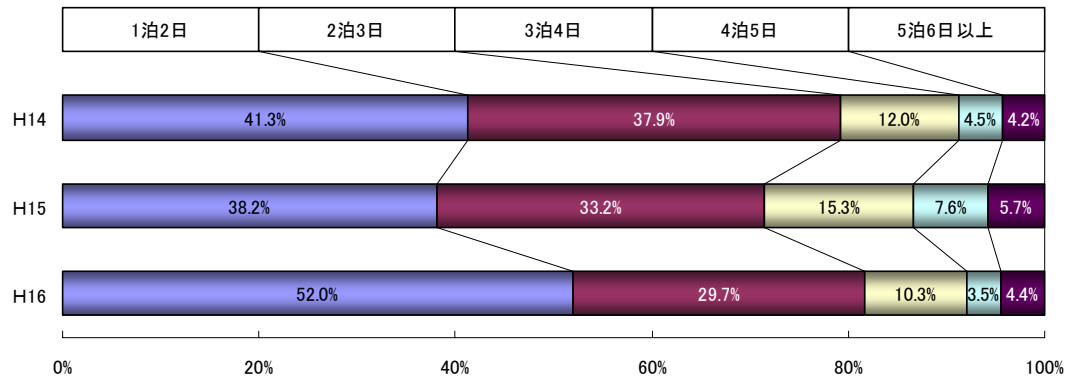
- ・ 「いいえ」（旅行会社を利用せず自分で手配）がやや多い

宿泊の有無



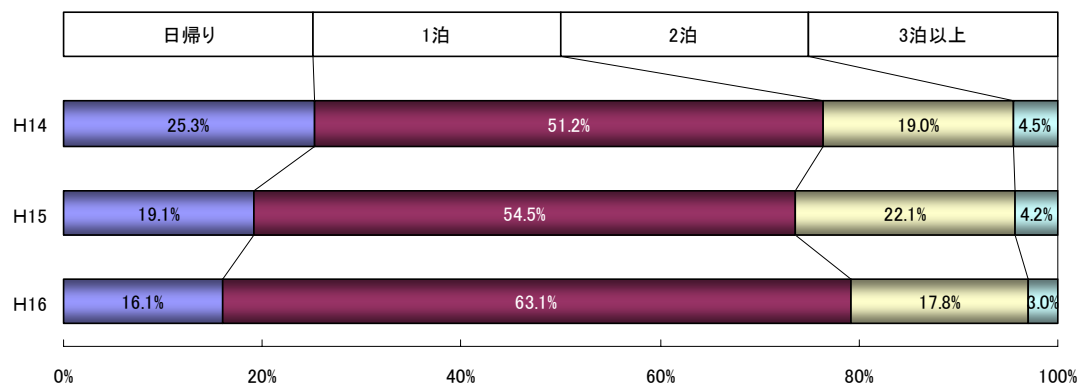
- ・ 「日帰り」が微増傾向

旅行日程



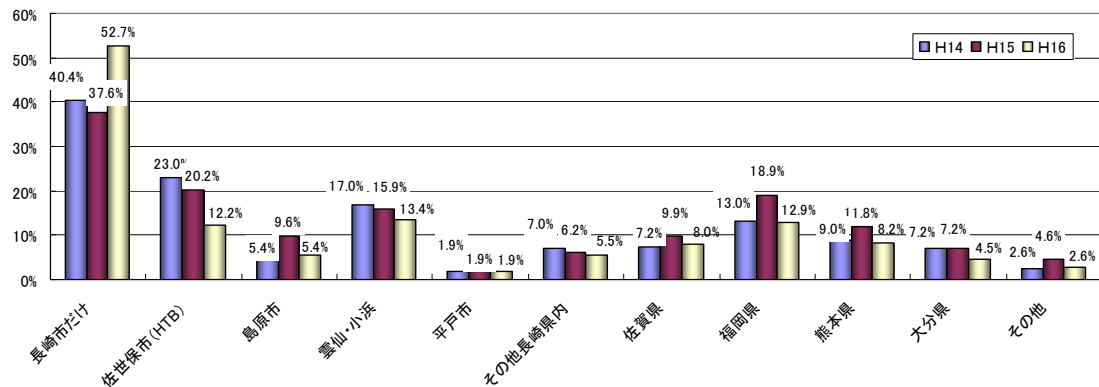
- 平成 16 年度調査では「1 泊 2 日」が増加

長崎市内泊数



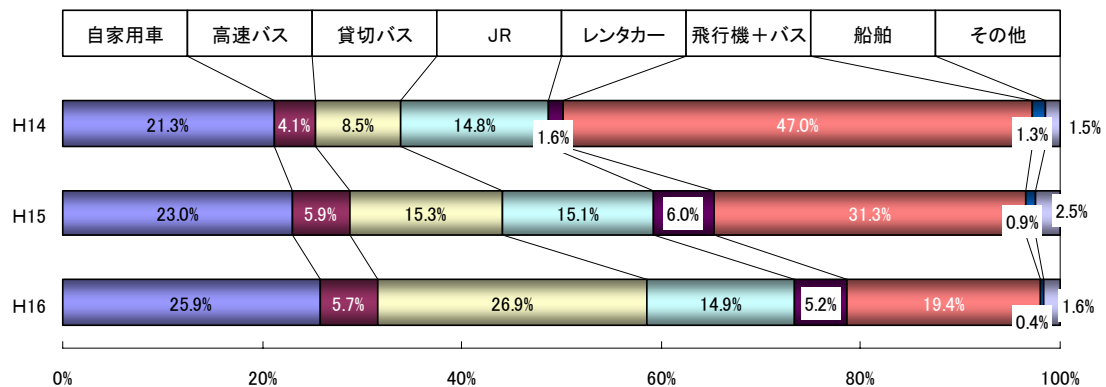
- 「日帰り」は減少傾向
- 「1 泊 2 日」は増加傾向

長崎市以外の訪問・訪問予定地



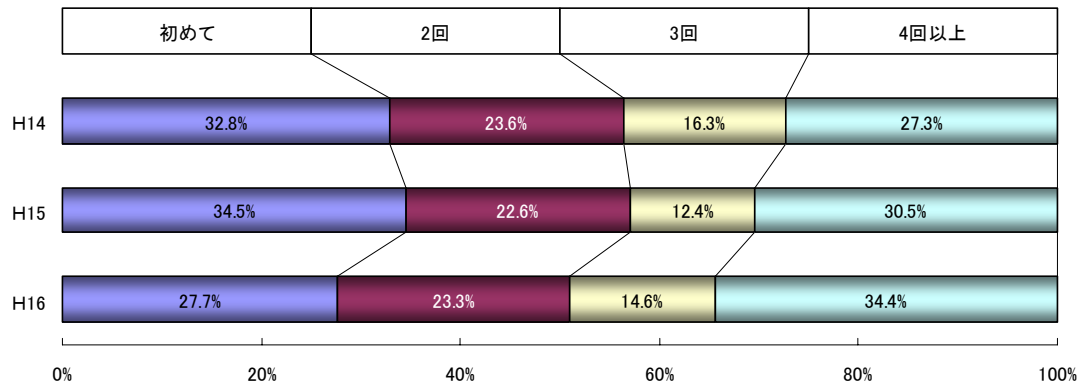
- ・ 平成 16 年度調査では「長崎市だけ」が増加
- ・ 「佐世保市（ハウステンボス）」、「雲仙・小浜」は減少傾向

長崎市に入るまでの交通手段



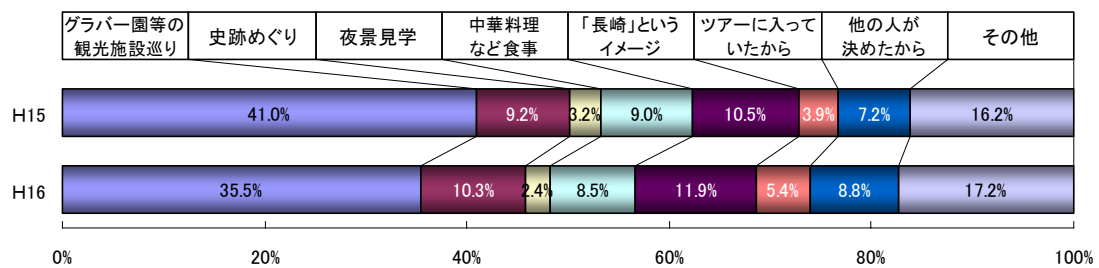
- ・ 「自家用車」、「貸切バス」、「レンタカー」は増加傾向
- ・ 「飛行機+バス」は顕著な減少傾向

長崎訪問回数



- ・ 平成 16 年度調査では「初めて」が減少
- ・ 「4 回以上」は増加傾向

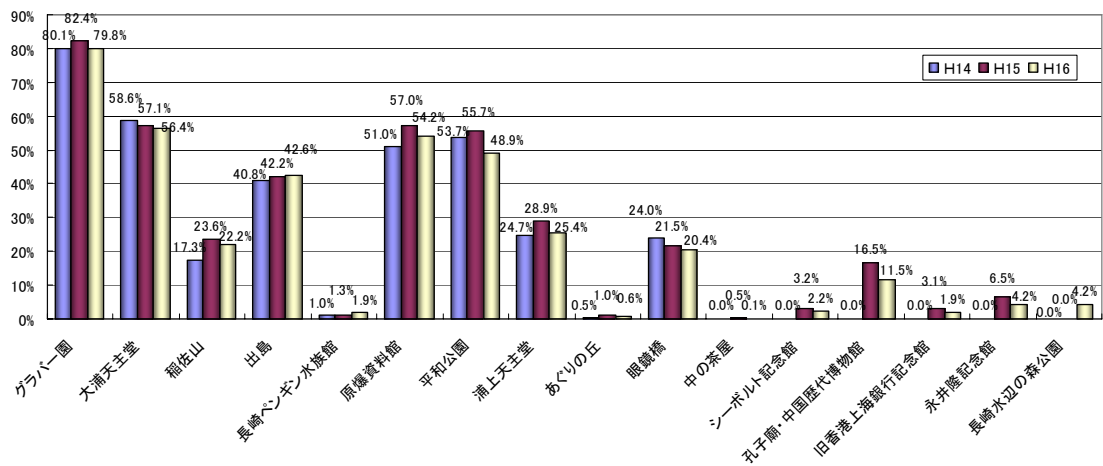
長崎を旅行先に決めた理由・目的



※H15 調査において選択肢の大幅な変更がなされているため、H14 調査結果は省略

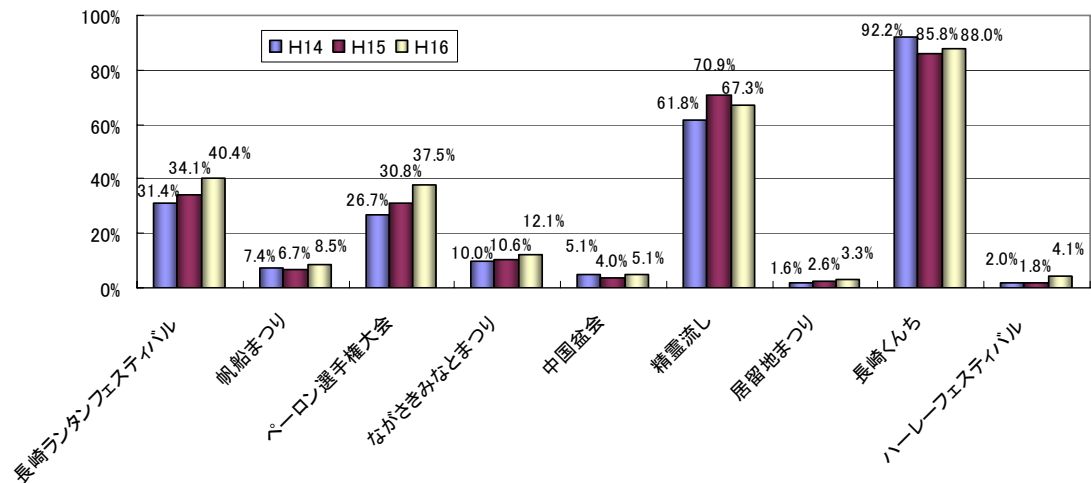
- ・ 「グラバー園等の観光施設巡り」が減少

市内での訪問・訪問予定地



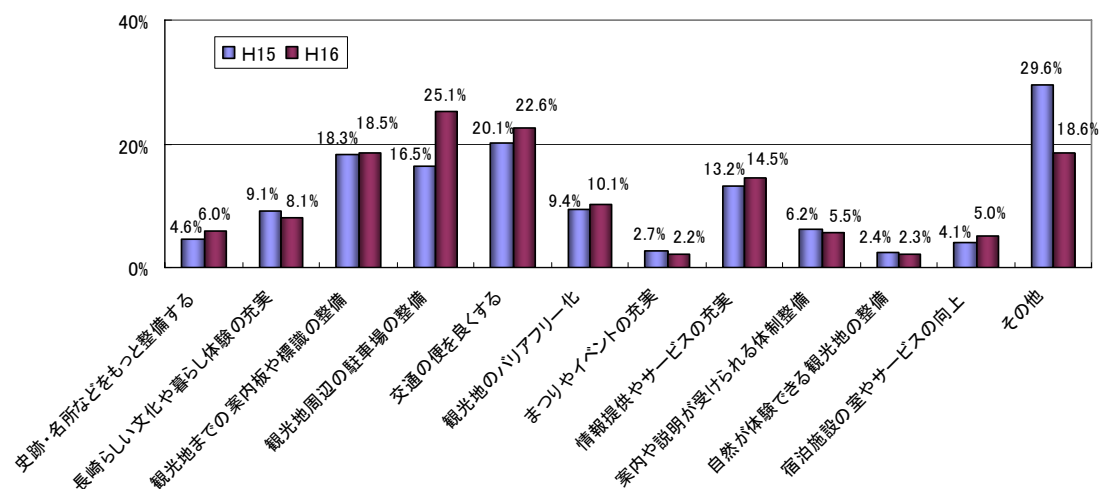
- ・ 「グラバー園」、「大浦天主堂」、「原爆資料館」、「平和公園」などが多い

長崎のお祭り・行事認知



- ・ 「長崎くんち」、「精霊流し」の認知度が高い
- ・ 「長崎ランタンフェスティバル」、「ペーロン選手権大会」の認知度は増加傾向
- ・ 「帆船まつり」、「ながさきみなとまつり」は規模の割に認知度が低い

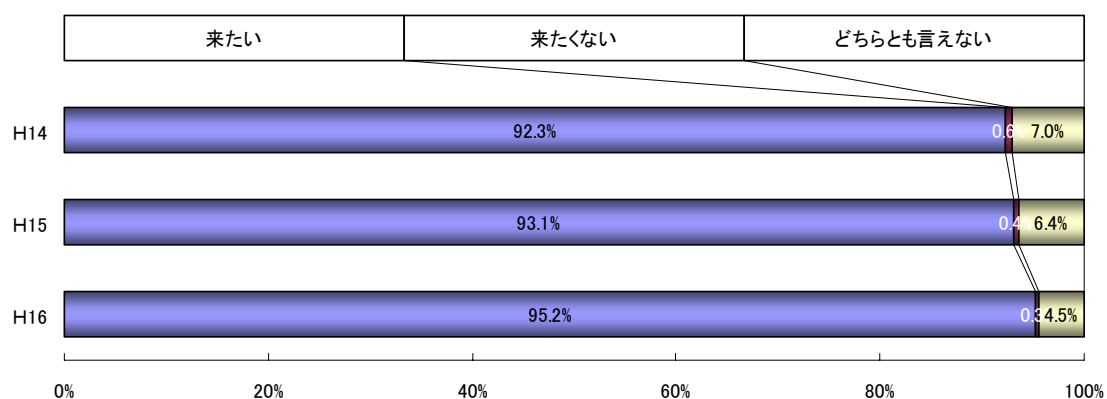
長崎観光に望むこと



※H15 調査において選択肢の大幅な変更がなされているため、H14 調査結果は省略

- 「観光地までの案内板や標識の整備」、「観光地周辺の駐車場の整備」、「交通の便を良くする」といったアクセス改善に関する要望が多い

長崎再来訪意向



- いずれの年度も「来たい」が90%を超えており、再訪の意向は強い。
- 「来たい」の率も上昇傾向

Ⅵ. 長崎市における交流人口拡大施策の策定に関する調査検討委員会概要

(1) 長崎市における交流人口拡大施策の策定に関する調査検討委員会委員名簿

(順不同 敬称略)

区分	氏名	役職	備考
学識経験者	山口純哉	長崎大学経済学部助教授	
観光関連	相原勝義	(社) 長崎県観光連盟 国内誘致部長	
商工・コンベンション 関連	小林喜平太	長崎商工会議所 観光・コンベンション 振興委員会委員長 観光部会副部会長	(株) 稲佐山観光ホテル 代表取締役社長
旅行業関連	南部勝也	(社) 日本旅行業協会九州支部 長崎地区会会長	近畿日本ツーリスト (株) 長崎支店長
さるく博関連	川良真理	市民プロデューサー	(有) ザ・ながさき 発行主幹
(コーディネーター)	菊森淳文	(財) ながさき地域政策研究所 常務理事兼調査研究部長	

(主催) 財団法人ながさき地域政策研究所

(2) 第1回委員会

日時 平成18年1月30日（月） 13:30～

場所 長崎市議会第2会議室

<主な意見>

- ・県観光連盟の方でも、地域発着型旅行を検討中であり、さるく博後の推進体制をどうしていくのが課題である。
- ・長崎市においては、昔からの情緒ある建物の保存活動が弱く、反対に壊してきている。これから市内に建てる建物については、デザイン等に留意し簡単に壊せない建物とすべきである。
- ・IT・ITと言われるが、「携帯電話による情報発信」システムなどは、ほとんど利用されないのが現実である。観光というものは、人と人との触れ合いが大事な要素の1つであり、逆にアナログの方が効果的であると考える。
- ・さるく博のいい面、役立つ面を全国に発信できれば良いのではないだろうか。
- ・さるく博の「まち歩き」というテーマについては、これからの旅行の主となるものであり、マッチしているテーマであると思う。
- ・交流人口の拡大を考えるうえで、ポイントは2つある。
 - ①外国人：ハウステンボスは韓国人、中国人の来客が多いが、さるく博についてはどうするか。長崎市へ外国人観光客をどのようにして誘致していくのか。
 - ②交流人口：日帰りの交流人口と、宿泊を伴う交流人口に区分けして考えていくのか。外国人観光客誘致に関係するが、外国人を誘致すると、必ず宿泊が発生することになる。
- ・さるく博に向けてのマップづくりは、今後の市民によるマップづくりにおいて、ノウハウを与える良いきっかけになると思う。また、学生などによるまちづくりの勉強にも役立つ。
- ・今後検討すべきことは、さるく博による様々なノウハウが、誰に蓄積されるようになっているのか、また、今後は市民だけでやっていくのか、それとも行政も携わっていくのか、ということに尽きる。
- ・さるく博本番においては、生の観光客の声を聞くべきである。

- ・さるく博で培われた市民の力を継続していくためにはどうすればよいのか、ということ
を議論すべきである。ここまで住民が絡んだイベントは、今後無いと思うので、どんど
ん活用すべきである。
- ・地域がリーダーとなって情報発信し、リピーターの確保も考えていくことが重要である。
- ・中通り商店街などは、江戸の風情を残している所などと言われることがあるが、江戸の
風情というよりも、どちらかというと“懐かしい風景”の類に入ると思う。このように、
長崎市内のそれぞれの街に色を付けていくことが大事である。
- ・市民ガイドの力が、長崎市の魅力を決める。
- ・ボランティアガイドだけでは限界があると思われるので、行政は、そういったボランテ
ィアガイド達の声聞きながら、有償ガイド（プロのガイド）のことも検討する必要が
ある。
- ・観光業以外の市民、例えば、商店主や事業主、工場の主などといった人達の観光に対す
る協力の姿勢が見えてこない。長崎市在住の事業者の人達は、どうやったら長崎市への
ビジターをもっと増やすことができるのかについて、もっと協力的にならなければなら
ない。

(3) 第2回委員会

日時 平成18年2月20日（月） 13:30～

場所 長崎市議会第2会議室

<主な意見>

- ・長崎市には、グラバー園などの観光資源が存在するという情報だけではだめだ。観光地の写真を単にネット発信するだけではなく、どのような情報発信をしていけばいいのかということがポイントとなる。ガイドについては、名前と顔だけではなく、もっと突っ込んだ情報を発信していけばいいのではないかな。また、そういった情報内容を県外企業ではなく、地元企業に作成してもらうことが重要である。
- ・お客様の中には「ガイドはいらない、1人がいい。」といった方も見受けられるので、観光客を受け入れる側は窓口を広げておくべきである。
- ・長崎の「海」についてのアピールが不足している。
- ・まち歩きについても、長崎市は高齢者への配慮をもっとアピールすべきである。これからの時代には「生きがい」や「健康」がテーマとなってくる。
- ・ガイドについては、レベル・個性・有料・無料・専門性などを、それぞれアピールしていくべきであり、そういうシステムが必要である。また、留学生をガイドとして活用することも考えるべきである。
- ・「食」については、周辺に専門学校も多い元船遊歩道に屋台村のようなものがあればいいのではないかな。
- ・「らんらん」について、車内への観光リーフレット設置や車内アナウンスの一新など、もっと活用すべきである。例えば、四国・松山の「坊ちゃん列車」などは車内で単にアナウンステープを流すのではなく、ちゃんと人が乗務している。
- ・コンベンションの誘致については、観光を全面に打ち出し、コンベンションに関連した観光コースをアピールしていくべきである。
- ・長崎には「食」がありすぎる。それらを活用する知恵と仕掛けが必要である。1つの素材を1ヶ所に集中できれば、人を集めやすいのではないかな。
- ・コンベンションについては、もっとその重要性を市の職員にも徹底させる必要がある。
- ・県立美術館のコンベンション誘致への活用を検討すべきである。
- ・韓国の観光業体験視察誘致や観光業の研修を受け入れる場として、長崎市を選んでもらう努力をする必要がある。例えば、済州大学の観光学科の生徒達は、既に長崎市へ研修

に來ている。

- ・ 外国からの集客で最も効果的なものは修学旅行である。
- ・ コンベンションの誘致については、魅力的な収容能力のある器がないと非常に難しい。
- ・ 中国人向け、韓国人向けの「まち歩き」コースが必要ではないか。
- ・ 留学生のガイドへの活用というものは、非常に魅力的である。
- ・ 長崎空港におけるバス路線の案内が非常に不親切である。
- ・ 「食」については、市内で食事する際に、地元の食材をどんどんアピールすべきである。
- ・ 出島の建物の中の一角に、研究のために日本や長崎を訪問しているオランダ人達を集めた「日本研究施設」を設置するなど、現代版「出島」の整備なども検討すべきである。
- ・ 外国人観光客誘致のためには、長崎市と友好都市関係を結んでいる外国の都市の利活用も検討すべきである。
- ・ 平和を研究する「平和センター」のようなものも検討すべきである。コンベンションを誘致する時にも効果を発揮すると思う。

(4) 第3回委員会

日時 平成18年3月6日（月） 13:30～

場所 長崎県土地開発公社会議室

<主な意見>

【国内観光客対策について】

- ・今までの情報発信は人的なものであったが、これからはITを使ったものが主流になるのは確かである。メールマガジン会員の囲い込みとか、旅行業者と一般人とを分けて情報発信するとか、様々なやり方が考えられるが、いままでの人件費分をこういった分野に集中させていくこととする。さらに、一方的な情報発信だけではなくて、アンケートなどによる、観光客との情報交換（双方向性）も必要である。また、こういった様々な手法に対しては、その効果の検証が必要となってくる。
- ・的はずれな相手への情報発信には注意が必要である。また、「もてなし」をどうやって反映させていくのかも課題である。
- ・長崎市内の観光コースについては、もっと市民への啓蒙活動が必要であり、そのことが観光客のリピーター化にもつながってくると考える。
- ・ボランティアガイドについては、誰をリーダーにするかで、うまくいく、いかないが決まる。
- ・観光コースについては健常者だけでなく、障害者に対応したコース作りも行うべきである。
- ・ガイドの組織化、委託先としては、NPO（民間非営利組織）の他にLLP（有限責任事業組合）という組織も考えられるが、さるく博でのガイド組織を、今後も活用したほうが良いと思う。
- ・観光行政に関わる組織を整理し、どこか1つに絞り込むことが重要である。
- ・国土交通省が今年の夏頃に予定している、地域発着のミニ旅行のみを取り扱うことができる旅行業に関する新免許“旅行業種三種”を取得した会社による、ガイド組織のとりまとめなどを検討してはどうか。

【ビジネス客対策について】

- ・忙しいビジネス客向けの、歩いて1時間程度の観光コースを設定しておく必要がある。
- ・ビジネスマンでホテル食に飽きている人も多い。そこで、ホテルの外に、朝から開店している、おいしいお粥の店など検討する必要があるのではないかな。
- ・ビジネス客については、「人が付いて案内する」パターンと、「1人で自由に回る」パターンのどちらが有効なのかを見極める必要がある。
- ・ビジネス客については、短時間で廻れるタクシーによる観光コースの活用も検討すべきである。

【コンベンション対策について】

- ・コンベンション施設の整備・充実が必要である。
- ・長崎ブリックホールは、コンベンション開催において使い勝手が悪い施設となっており改善が必要である。
- ・コンベンションの誘致においては、現地まで往復する交通機関の中で、コースのテーマに沿った話ができる人材やコンベンション開催会場での受付や誘導を行ったりすることができる専用のボランティアが必要である。

【外国人対策について】

- ・修学旅行誘致については、県と連携して取り組んだ方が良い。
- ・長崎市には外国人観光客の誘客について、ノウハウ蓄積及び誘客についての意見の行政内部における共通認識醸成を図るため、専用の窓口（担当課）の設置を検討すべきである。
- ・修学旅行においては、単に学校交流だけを行うのではなく、産業観光など、日本人にもうけている勉強・学習コースは、外国人にもうける、ということで取り入れていく必要がある。